

令和8年度 6月定例会会議録

- ◎開催日時 令和8年6月25日（木） 午後1時30分～午後3時20分
◎場所 伊那市役所 庁議室
◎出席委員 福與教育長、宮坂教育長職務代理者、黒河内教育委員、中村教育委員、神山委員
◎欠席委員 なし
◎出席職員 北原教育次長、北原学校教育課長、矢澤教育環境整備課長、柴生涯学習課長、
北澤市誌編さん室長、塚越社会教育指導員、高嶋指導主事、小島指導主事、
北原こども部長、澁谷こども政策課長、宮下子育てサポート課長
牧田教育総務係長

1 開 会

2 あいさつ 教育長

- ・市議会6月定例会が先週3日間開催され、一般質問が行われた。教育委員会に関する質問については、後ほど説明する予定である。
- ・一般質問の中では、通学路の安心安全に関する質問が複数あり、クマの出没、交通状況、不審者対応などを含め、子どもたちが安心安全に登校できる環境づくりが改めて大きな課題であると感じている。
- ・通学路の安全については、毎年、学校・保護者・中学生になると生徒と一緒に安全確認や見直しを行っているが、今後は地域や大人がどのように環境整備を進めていくかが重要である。
- ・道路環境の整備をはじめ、様々な面から取り組みを進め、子ども一人一人が安心して通える通学路の確保につなげていきたい。
- ・本日の定例教育委員会終了後には、第1回総合教育会議が予定されているため、よろしくお願いしたい。

3 委員のひと言 教育長職務代理者

4 会議事項

第1 教育長報告

- ・5月23日に進徳館の日が開催され、これに先立ち記念少年剣道大会が高遠会場で行われた。剣道大会は昨年の8チームから12チームに増え、中学生の参加が増加していた。進徳館の日では、高遠中学校長の講話、高遠小学校長と合唱団児童による学習発表、前高遠町歴史博物館館長の講話が行われ、いずれも「高遠力」という共通の視点につながる内容であった。学校、地域、保護者が一体となって子どもを育ててきた積み重ねが子どもたちの力につながっていることを改めて感じた。
- ・5月26日に上伊那市町村教委連絡協議会教育長部会が開催され、今年度の教育関係団体としての要望事項の取りまとめや、11月開催予定の社会教育関係者懇談会のテーマについて協議した。懇談会では、デジタル化・情報化された社会に生きるこれからの子どもたちの教育のあり方をテーマに、皆で考え合う時間にしたいとの方向で進めている。
- ・6月2日に伊那市人権同和教育研修会が開催され、多文化共生をテーマに研修を行った。講師の言葉のうち、「みんな違ってみんないいで終わってよいのか」、「マジョリティーとしての特権性を自覚することから始める必要があるのではないか」という2点が特に印象に残った。
- ・6月3日に南アルプス北部地区山岳遭難防止対策協議会総会が長谷総合支所で開催され、管轄内における昨年度の遭難者数は10名であり、南アルプスでの死者は0であったとの報告があった。

高齢登山者の遭難が課題となる中、救助隊や警察の尽力の大きさを改めて感じた。

- ・ 6月13日に伊那美術展の授賞式が行われた。101回目となる今回の美術展では、ジュニア部門にも優れた作品が多く見られ、子どもたちの今後の成長が期待された。あわせて、竜西保育園の園児と伊那美術協会の皆さんが大きな紙と一緒に絵を描く取組も展示されており、美術活動の原点となるような貴重な体験であると感じた。
- ・ 6月15日に特別支援教育推進員の訪問があり、副学籍制度について話しが出た。伊那市では平成25年から、支援学校に通う児童生徒が居住地の学校ともつながりを持てるよう交流や共同学習を進めており、昨年度には県内すべての市町村で同様の制度が整ったとのことであった。今後もインクルーシブ教育推進の視点から質の向上を図っていく必要があると感じた。
- ・ 6月22日に高遠学園構想推進連絡会が開催された。高遠高校を核として、保育園、小・中学校、公共施設が連携し、地域全体で子どもの育ちを支える取組が進められており、高校からは被災地支援、地場産業体験、伝統行事への参加、台湾との交流などを通じて生徒の自己肯定感が高まっているとの報告があった。保育園や小・中学校でも高校生との交流が進み、今後は進路や地域社会との結びつき、防災面での役割も含め、さらに充実した構想の推進が期待される。

第2 協議事項

(1) 教育委員会推薦等による各種委員等について (修正)

- ・ 学校教育課長から資料に基づき説明
- ・ 質問、意見はなく、原案どおり決議された。

第3 報告事項

(1) 児童生徒数見込みについて

- ・ 学校教育課長から資料に基づき説明
- ・ 教育長から、資料中の「市町村立小学校及び中学校の学級編成の基準」のうち、「同学年の児童で編成する学級」における国の基準の数値について、小学校は1～6年生が35人、中学校は1年生が35人、2～3年生が40人である旨の訂正があった。
- ・ 教育委員から「5ページの『児童・生徒数学年別進行表』について、特別支援学級の在籍者数の割合が伊那北小学校、伊那西小学校、新山小学校で平均を大きく上回っているように見えるが、小規模特認校であることと関係があるのか」との質問があり、学校教育課長から「特別支援学級の人数は令和8年度の割合を参考に、一定の割合で入級するとの仮定に基づいて推計している。詳細な内訳資料は手元にないが、(該当の学校は) 割合が高いとの認識である」旨の説明があった。また、教育長から「少人数の学校では人数の違いが割合に表れやすい」旨の補足説明があった。

(2) 中学生の自習室2026夏の実施について

- ・ 学校教育課長から資料に基づき説明
(質問・意見なし)

(3) 伊那市ICTサマーキャンプ2026について

- ・ 教育環境整備課長から資料に基づき説明
- ・ 教育委員から「馬と触れ合えることが非常に珍しく、自然の中での体験ができそうだと印象を受けた。一方で、タイトルは『ICTに触れることができる』ことを前面に出した『ICTサマーキャンプ2026』となっているが、ICTに触れること自体は既に日常になっており、むしろ馬との触れ合いなどデジタルなものから離れたアナログな体験の方が重要になっているように感じる。今回はこの名称でよいとしても、今後、子どもに届くチラシを作成する際には、そのあたりの力点や名称の付け方を見直す必要があるのではないか」との意見が

あり、教育環境整備課長から「来年度の企画を進める中で、担当に伝え、検討していきたい」旨の回答があった。また、教育長から「ICT機器はあくまでもツールとして考えているため、その点をどう組み合わせていくかを検討してほしい」旨の発言があった。

(4) 令和8年度伊那市二十歳のつどいについて

- ・生涯学習課長から資料に基づき説明
- ・教育長から「今年度から中学校区単位で実施することとし、東部中学校区及び春富中学校区の卒業生が一つの会場に集まれるようになる。お盆の時期でもあるので、日程等について意見があれば生涯学習課長に伝えてほしい」旨の発言があった。

(5) おいで塾の実施について

- ・生涯学習課長から資料に基づき説明
- ・教育委員から「スタッフには高校生も含まれているようだが、どのように決めているのか」との質問があり、生涯学習課長から「各公民館長が人とのつながりの中で選んでいる」旨の回答があった。また、教育長から「伊那公民館では近年、新規採用の市職員にも意図的に関わってもらっており、各公民館が学習支援や体験支援を中心に特色を持って取り組んでいる。機会があれば開催時の様子も見ていただきたい」旨の発言があった。

(6) 伊那節継承事業の実施について

- ・生涯学習課長から資料に基づき説明
- ・教育委員から「伊那節継承者の育成の現状はどうか」との質問があり、生涯学習課長から「現在、17名の歌手が参加しており、月1回の練習を通じて今後さらに増えていくことを期待している」旨の回答があった。

(7) 井月俳句大会小中学校の部の開催について

- ・生涯学習課長から資料に基づき説明
(質問・意見なし)

(8) 史跡高遠城跡南曲輪の発掘調査について

- ・生涯学習課長から資料に基づき説明
- ・教育委員から「発掘の結果、庭があったことが確認された場合、最終的に復元する考えがあるのか」との質問があり、生涯学習課長から「本調査は昨年度から10年間の計画で実施している基礎調査であり、その後の計画の中で復元の可否を含め、史跡高遠城跡保存活用計画策定委員会に諮りながら決定していきたい」旨の回答があった。また、教育長から「昨年度の調査では残された絵地図の正確さが確認されており、今年度の調査でどのような成果が得られるか期待している」旨の発言があった。

(9) 令和8年度 伊那市よりよい教育環境推進協議会について

- ・社会教育指導員から資料に基づき説明
- ・教育長から「具体的に委員に対応いただく内容を説明してほしい」との発言があり、社会教育指導員から「各学校に設置されている協議会等への出席をお願いすることになる」旨の説明があった。これに関連して、教育委員から「近年は案内が少ないように感じること」、「コミュニティスクールと役割が重なるのであれば統合も考えられるのではないか」、「設置の経緯や見直し・廃止の権限をどこが持つのか」との意見及び質問があり、社会教育指導員から「設置は平成9年度から10年度にかけて行われたと承知しているが、詳細は把握しきれていない」旨の回答があった。また、教育長から、「学校によってはコミュニティスクールの枠組

みの中で同様の機能を担っており、制度の経緯や現状を確認した上で、今後の在り方を検討していく必要がある」旨の発言があった。

(10) 東春近公民館改修工事について

- ・生涯学習課長から資料に基づき説明
(質問・意見なし)

(11) 人権同和教育事業について

- ・社会教育指導員から資料に基づき説明
- ・教育委員から「外国人を労働力として受け入れる企業と市との連携や、外国籍の子どもが学校に入る際の支援について、市としてどのような取組をしているのか」との質問があり、教育長から「外国籍児童生徒の受入れは県全体の課題として県教育委員会でも検討が進められており、伊那市でも就学前の子どもや保護者を対象とした日本語や生活習慣に関する支援を昨年度から始めているほか、伊那北小学校、伊那東小学校及び東部中学校に日本語指導教室を設置し、ニーズに応じた対応の在り方について研究を進めている」旨の回答があった。
- ・また、別の教育委員から「外国籍の子どもの受入れは喫緊の課題であり、総合教育会議等でも課題として取り上げてほしい」旨の意見があり、教育長から、「今後、形が見えてきた段階で意見をいただけるようにしたい」旨の発言があった。

(12) 市誌編さん事業の進捗状況について

- ・市誌編さん室長から資料に基づき説明
(質問・意見なし)

(13) 来月以降の文化施設の行事日程について

- ・生涯学習課長から資料に基づき説明
(質問・意見なし)

(14) 共催・後援について

- ・学校教育課長から資料に基づき説明
(質問・意見なし)

5 その他

- (1) 次回定例会について
- (2) 8月以降の主な行事予定について
- (3) 本日の総合教育会議について

6 閉 会